

芸術学

芸術学科 芸術学コース

◆ TR テキストレポート科目
 ◆ TX テキスト特別科目
 ● S スクーリング科目
 必 必修科目
 選必 選択必修科目
 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2022年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

芸術学コース専門教育科目

芸術活動という営みの意味を見つめるため、既成概念を取り払う。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学研修	芸術学フィールドワーク	●	必	1		芸術作品を現地での見学やグループワークを通して芸術学の基本的な見方や考え方を学びつつ、学生同士の交流も深める。
芸術学実践	芸術学ワークショップ	●	必	1		講義でもなく鑑賞でもなく、実践(ワークショップ)の授業。クラスによって、顔料に触ったり、音を鳴らしたり、作品のディスクリプションを書いたり、芸術を実践的に学ぶ。
芸術論 I-1	芸術理論	◆	必	2	有	日本・東洋・西洋の芸術論・文化論に慣れ親しむための入門的な科目。古今東西の芸術や文化について論じたさまざまな著作を読み、一定量の複雑な内容のテキストを精読するための技術と体力を身につける。
芸術論 I-3	芸術鑑賞1:日本・東洋	◆	必	2	有	日本・東洋美術に慣れ親しむための入門的な科目。各地の美術館や博物館で開催されている日本・東洋美術の展覧会に出かけ、展示されている作品の中から一つを選び、記述することを通じて作品を見る目を養う。
芸術論 I-4	芸術鑑賞2:西洋	◆	必	2	有	西洋美術に慣れ親しむための入門的な科目。各地の美術館や博物館で開催されている西洋美術の展覧会に出かけ、展示されている作品の中から一つを選び、記述することを通じて作品を見る目を養う。
芸術論 I-5	美術館・博物館の教育普及	◆	選	2	有	美術館・博物館の教育普及活動(ワークショップ)に参加し、その体験を踏まえて参考文献を読み、レポートを作成する。今日の美術館や博物館の重要な役割のひとつである教育普及活動について、机上の空論ではなく、多様な視点から主体的に考える力を養う。
芸術学 III-1	美術資料の読み方:日本・東洋	●	必	1		芸術を学ぶ者にとって文献の読解は必須である。原典に触れながら、基本的な資料の読み方を学ぶ。
芸術学 III-2	美術資料の読み方:西洋	●	必	1		
芸術学資料論 I-1	資料の講読:日本・東洋	◆	選必 (2単位以上)	2	有	日本・東洋・西洋の芸術学研究に欠かせない資料を読み解く。基本的な資料に慣れ親しみ、資料を正しく読解する力、その内容について理解を深める力を養う。
芸術学資料論 I-2	資料の講読:西洋	◆		2	有	
芸術学演習 I-2	美術批評	◆	必	2	有	芸術批評の理論と歴史を把握した上で実際に批評を試みる。
芸術学 I-1	芸術理論:芸術環境を巡る諸問題	●	選必 (2単位以上)	1		自然をモノ化して所有する行為と芸術活動との関係について、文化的な状況を確認しつつ、原理的な考察を行う。
芸術学 I-2	芸術理論:芸術学原論(祭礼と感性)	●		1		祭りに内在する(宗教的身振り)をいくつか抽出し、その先に見える宇宙像や宗教の世界について哲学的に考察する。
芸術学 I-3	芸術理論:舞踊論	●		1		老いと踊りというテーマを、芸術や身体、政治を巡る言説を通してどのように考えられるのか、を中心にみる。
芸術学 I-4	芸術理論:表象行為論	●		1		美術史や芸術論といったテキストの解説ではなく、人間がいかにその肉体と精神を通じて世界と文化的、有機的に関係しているかをダイナミックにとらえていく。
芸術学 I-5	芸術理論:視覚文化論	●		1		映画、写真、テレビジョン、パノラマ、広告、マンガなど、今日の私たちを取り巻く視覚イメージの意味や成立について講じる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学Ⅱ-1	芸術史:西洋中世美術史の諸相	S	選必 (2単位以上)	1		西洋中世1000年間の美術の諸相を広く学び、作品理解を深めていく方法を身につける。
芸術学Ⅱ-2	芸術史:西洋芸術史の諸問題	S		1		フロイトを中心に、芸術作品の創造と無意識の関係性、芸術作品を鑑賞し解釈するうえでの精神分析の有効性を考える。
芸術学Ⅱ-3	芸術史:日本芸術史の諸問題	S		1		日本芸術史の諸問題について、特に近代の芸術コレクター、支援者であった原三溪を取り上げ、三溪が手がかりに近代美術史の重要な問題について論じる。三溪を軸にみていくことで、当時の美術をとり巻くさまざまな様相を明らかにする。
芸術学Ⅱ-4	芸術史:東洋芸術史の諸問題	S		1		仏教美術の作例を中心に取り上げ、従来の研究成果を振り返りつつ、その研究方法と今後の可能性について考察する。作例を軸とした研究と関連資料の研究の重要性を学び、さまざまな視点から考察する力を養うことが目標である。
芸術学Ⅱ-5	芸術史:西洋音楽の諸相	S		1		西洋近現代音楽の流れ、西洋音楽をめぐる歴史記述のメカニズムとその問題点、音楽作品について語るためのさまざまな方法・視点、について知識と理解を深める。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります(芸必修=芸術学コース必修、歴必修=歴史遺産コース必修、文必修=文芸コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)。

※アートライティングコース在学生在が履修できない科目もあります(ア履修不可)。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学基礎	TR	2	有	芸術の理論的研究に取り組むために必要な基本的語彙(キ・ワード)の意味を理解する。あわせてそれを実際の作例に即して考えることを試み、感性的な対象に向けての理論的な思考を培うことを目標とする。※芸必修
美術史学基礎	TR	2	有	日本・東洋・西洋の美術史学の研究に親しむための入門科目。具体的な作品研究を扱う優れた文献購読を通して、作品をどのように見たらいいのか、また作品をどのように解釈したらいいのか、という美術史研究の基礎を実践的に学ぶ。
地域芸術理論	TR	2	有	地域環境は、季節や行事など色々な要素の周期的繰り返しによって規定される特定の型をもった場所である一方、それはいつも可変的な状態にある。地域環境における具体的な「生」の姿を注視することにより、その「生」がどのようなカオスと闘ってきたかを考察する。
京都学入門	TR	2	有	1200年を超える歴史を積み重ねてきた「京都」。その伝統と創造が繰り返されてきた歳月をいかに学ぶべきか。テキスト「京都学」を通じて、京都を学ぶための基礎を構築することを目指す。※歴必修
史料学基礎	TR	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料にはさまざまな種類があり、その特質など史料論を理解する科目。※歴必修
史料講読基礎	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、古代・中世・近世・近代と各時代のものを取り上げ、史料を読むための基礎を理解出来る科目群。※歴必修
日本文化の源流	TR	2	有	[和の伝統文化]を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	2	有	
日本の生活文化	TR	2	有	
芸術学概論	S	1		芸術活動は古くから人々の関心を惹き続け、それを巡るさまざまな議論が重ねられてきた。芸術の諸領域にまたがる基本的な問題をいくつかとりあげ、これまでどのようなことが論じられてきたのかを概観するとともに、芸術学の立場や方法を講じる。※芸必修
美術史学概論	S	1		美術史を学ぶための入門科目。日本・東洋・西洋の著名な美術作品を取りあげながら従来のさまざまな研究について学ぶ。過去の研究の方法論を学び、残された課題や新たな研究の可能性を模索する。※芸必修
日本美術論	S	1		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	1		美術史研究のさまざまな方法論を学びながら、作品について理解を深め、西洋美術史研究のための基礎的な能力を身につける。
アジア美術論	S	1		[中国]世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島]高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
音楽文化論	S	1		音楽を文化的システムとして考えることから、さまざまな音楽文化現象を読み解く。
京都の歴史	S	1		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的な事柄を、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的な理解を目指す。※歴必修
文献資料講読	S	1		古文・漢文などの歴史的な史料を読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。※歴必修
京都学研修1	S	1		「京都」は、古代から近代までの歴史が重層となった地である。そうした歴史や伝統行事の現場を京都各地にフィールドワークし、その空間のもつ現場の体感を大切に、ゆたかな歴史認識を養うことを目指す。
京都学研修2	S	1		
江戸の歴史	S	1		江戸は、いうまでもなく近世の歴史の中心地であり、文化的にも京都とは異なる特色あるものを生み出した。江戸時代260年をかけて平和の中に構築された人々の生活や文化の豊かな諸相への歴史的な理解を深める。
文化批評概論	TR	2	有	オリエンタリズム、ポストコロニアリズム、脱構築、ジェンダーなど、20世紀以降の文化・芸術領域の批評用語を歴史的な文脈の中に位置付けて学ぶ。※文必修
神話学入門	S	1		世界各地の神話に遍在するテーマと構造を概観し、それらが反復して現れている現代の文芸・映画・アニメ・ゲームなどを分析する。
世界の古典を読む	S	1		世界のさまざまな古典文学の源泉をたどることで、文学の基本構造やその変容をとらえ、現代の創作に結びつけることを目指す。※文必修
日本の古典を読む	S	1		日本の古典文学に描かれた美意識や生々しい人間像を、それぞれの時代の文脈に即して読み解いていく。
京都の文芸	S	1		千年の古都・京都はさまざまな文学の舞台となってきた。それらのエッセンスと成り立ちを学び、舞台となったその場所を訪れて、「土地の力」を感受する。
短歌と俳句	S	1		三十一音、十七音で森羅万象を表現する短歌と俳句。それらの歴史と作品の構造を、名作を鑑賞しつつ学ぶとともに、実作も試みる。
インタビューと取材の方法論	S	1		ジャーナリストのみならず、調査研究する者、小説家、ライターにとっても重要なスキルであるインタビューして書く、調べて書く方法を、第一線のインタビュアーに学ぶ。※文必修
詩歌と日本文化	S	1		和の伝統文化を構成する「芸能」、「工芸」、「詩歌」、「花道」等について、その歴史や思想に関する幅広い基礎知識を講義形式で学ぶ科目。※和必修
伝統芸能と工芸	S	1		
室礼ともてなし	S	1		
伝統芸能の諸相	S	1		
花道文化の展開	S	1		
伝統文化の空間	S	1		

研究成果を卒業論文にまとめる。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
2年次				
論文研究基礎演習	TX	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。※A履修不可
論文研究基礎	S	1		「論文研究」の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見い出していくのかを学ぶ。グループに分かれて実際に論文を読み、グループ内討議を経て問題を抽出していく。こうした実践を経ることによって先行研究に対する客観的批判力を養う。※歴必修※A履修不可
3年次				
論文研究特論	S	1		歴史・美術史・芸能史などの専門家による研究成果の一端を講義で学ぶ。専門家の研究内容から、最新の研究成果を知るだけでなく、データの収集方法、史料の解釈の仕方、論理の立て方など、論文を書くためのヒントを学び取る。※歴必修※A履修不可
論文研究 I-1 (芸歴和)	S	1		卒業研究(卒業論文)に直結した科目。学生が自ら研究テーマを見つけて研究し、発表し、複数の教員がゼミ形式で指導する。 ※芸・歴・和のみ履修可かつ必修
論文研究 I-2 (芸歴和)	TX	1		
論文研究 II-1 (芸歴和)	S	1		
論文研究 II-2 (芸歴和)	TX	1		

科目名	S/T	単位数	単位修得 試験	履修内容
4年次				
論文研究Ⅲ	TX	2		「論文研究1」「論文研究2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。 ※ア履修不可
卒業研究(芸歴和)	TX	8		これまでに学習してきたことの集大成として、自らの研究成果を文章に表現し、発表する。※芸・歴・和のみ履修可かつ必修

共通科目

芸術を通じてさまざまな人に多彩な学習経験をもたらす、その創造性や新しい可能性を引き出していくために「学部共通専門教育科目」、「総合教育科目」を共通科目として用意しています。

TR テキストレポート科目
 TW テキスト作品科目
 TX テキスト特別科目
 S スクーリング科目
 GS 芸術学舎科目
 WS Webスクーリング科目
 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2022年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。
※各コースの必修科目もあります。

学部共通専門教育科目(全学科・コース履修可)

芸術を学ぶ学生にとって基盤となる知識・見識を養うための科目群です。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
美学概論	TR	選※2	2	有	従来「美学」と呼ばれてきたAestheticsを、その原義を採用して「感性論」と名づけ直し、いわゆる「美」や「芸術」の問題を改めて人間の経験・認識のあり方全体と関わるものとして考察する。
芸術理論1	TR	選※2	2	有	東洋の芸術理論を実際のテキストに触れながら理解し、今日的な意味を考える。
芸術理論2	TR	選※2	2	有	西洋の生み出した芸術理論の数々の古典に学びつつ、芸術についての思索を深める。
地域芸術実践1	TX	選	2		地域の自然的文化的資産を生かした活動を、現地研修での経験を踏まえて考察する。
地域芸術実践2	TX	選	2		現地での講義やワークショップを通じ、地域での芸術活動のありかたを考察する。
知的財産権研究	TX	選※2	2		自らの制作や他者の作品利用にあたって不可欠な知的財産権に関する知見を培う。
芸術史講義(日本)1	WS	選※2	2		日本の造形芸術について、その成立から平安時代、鎌倉時代を中心に学ぶ。
芸術史講義(日本)2	WS	選※2	2		日本の造形芸術について、近世および近代の絵画・工芸を中心に学ぶ。
芸術史講義(日本)3	WS	選※2	2		日本の文学、芸能、音楽の古代から近世に至るまでの流れを辿る。
芸術史講義(日本)4	WS	選※2	2		江戸時代から明治期に至るまでの文学、歌舞伎、話芸、民俗芸能について学ぶ。
芸術史講義(アジア)1	WS	選※2	2		中国の古代から明清時代に至るまでの芸術史を学ぶ。
芸術史講義(アジア)2	WS	選※2	2		朝鮮半島、西アジア、中央アジア、インドなどアジア各地の芸術史を学ぶ。
芸術史講義(アジア)3	WS	選※2	2		中国の文学、音楽、舞台芸術について、古代から19世紀までの流れを学ぶ。
芸術史講義(アジア)4	WS	選※2	2		朝鮮半島、インド、東南アジアの文学、上演芸術について学ぶ。
芸術史講義(ヨーロッパ)1	WS	選※2	2		ヨーロッパの造形芸術の成立から盛期ルネサンスまでの展開を理解する。
芸術史講義(ヨーロッパ)2	WS	選※2	2		盛期ルネサンスから20世紀はじめまでの造形芸術の歴史を辿る。
芸術史講義(ヨーロッパ)3	WS	選※2	2		ヨーロッパの文学、音楽、舞台の歴史を古代ギリシアから18世紀まで辿る。
芸術史講義(ヨーロッパ)4	WS	選※2	2		18世紀・19世紀のヨーロッパ諸国の上演芸術作品の諸潮流を学ぶ。
芸術史講義(近現代)1	WS	選※2	2		20世紀初頭から21世紀まで、特に欧米での造形芸術の流れを学ぶ。
芸術史講義(近現代)2	WS	選※2	2		アジアやアフリカなどの動向や建築、写真、ファッションなどの歴史を学ぶ。
芸術史講義(近現代)3	WS	選※2	2		19世紀末からの文学、舞台芸術の流れを社会の動きとあわせて学ぶ。
芸術史講義(近現代)4	WS	選※2	2		近現代の欧米とアジアの音楽、映画そしてサブカルチャーの変遷を学ぶ。
学芸専門講義1～10※1	GS	選	各1		対面授業により、芸術の各ジャンルの基礎的な内容に関わる講義を受ける。
学芸専門演習1～10※1	GS	選	各1		対面授業により、実地に基礎的水準の専門的技術を学ぶ。

※1「学芸専門講義1～10」「学芸専門演習1～10」は芸術学舎の単位連携科目です。

※2 アートライティングコース必修

学部共通専門教育科目〔芸術学科・美術科・デザイン科のみ履修可〕

※アートライティングコース、書画コース、イラストレーションコースにおいて、一部履修できない科目があります。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
造形基礎演習1	TW	選	各2		造形活動に携わろうとする者にとって、最も基礎となる事柄は、「自分の目で見る」ことである。この科目では身近な物をデッサンすることで「見ること」を問い、「見る力」のありかを確認する。そして、「見ることはおもしろい」「描くことが見ることを鍛える」「デッサンはおもしろい」という勇気と確信をつかむ。
造形基礎演習2					
立体造形演習1	TW	選	各2		自然の中の形に含まれている、躍動感、緊張感、バランスの美しさといったさまざまな美的要素を立体的な形の中で追求する。
立体造形演習2					
色彩表現基礎	TW	選	2		テキストのレッスンに取り組むことで、日常生活の中で色彩を意識し、私たちをとりまく色彩環境に鋭敏に反応していくための力を身につける。また、先生方の講義録を通じて、色彩の現場の多様さを知る。
形態表現基礎	TW	選	2		芸術に携わる全ての者にとって、その制作・研究の対象となる『形』。この科目はテキストのレッスンを通して、周りの『形』を見直す。『形』とは何か？を考え、『形』を発見、観察し、自ら造形する事によって、『形』に対しての感性を養う。
美術史(日本)1	TR	選	各2	有	これらの科目は日本、ヨーロッパ、アジア、近現代の美術史について学ぶための入門的な科目である。それぞれ指定された6つの作品について調査し、素描とレポートを作成する。美術史の基礎知識と全体像の把握、そして美術史を調べる基本的なスキルの獲得を目指すとともに、それぞれの地域・時代において「芸術」がどのようにとらえられてきたか、また変貌してきたかを歴史的経緯をふまえて理解する。
美術史(日本)2					
美術史(ヨーロッパ)1					
美術史(ヨーロッパ)2					
美術史(アジア)1					
美術史(アジア)2					
美術史(近現代)1					
美術史(近現代)2					
工芸1	TR	選	2	有	陶芸の中心はアジアである。特に中国・韓国・日本の諸地域の陶芸史を通観し、時代や地域によってどのような陶磁器が作られてきたかを学ぶ。陶芸作品が制作された時代と地域を強く意識して、それぞれの特色を把握する。現代の陶芸には、過去の作品がどのように反映されているのか、またどの点が独創的なのかを考える。
写真論1	TR	選	各2	有	写真というメディアの光学的・化学的な基本原理と、複製技術としての性格、そして「写真の歴史」について基本的な知識を身につける。その上で、今日の社会におけるさまざまな写真表現に触れながら、その意義と可能性を探っていく。
写真論2					
デザイン論1	TR	選	各2	有	産業化、ポスト産業化の時代を経て、環境・資源などの問題を地球的規模で見直していくうえで、今ほどデザインの力を必要としている時代はない。近代のさまざまなデザイン論の展開を踏まえ、デザインの諸領域の実践を反省し、新しい時代におけるデザインの意味・役割を展開する。
デザイン論2					
都市概論	TR	選 ※	2	有	都市計画とは「われわれは如何に生きるべきか」を社会の仕組みとして計画することである。便利、安全、快適なまちづくりは都市計画の基本であり、そのための技術や制度、法律は時代の推移に従って変化し続け、社会の大きな課題であり続ける。その変遷を概説し、建築と都市の関係を学ぶ。 ※建築デザインコース必修
住宅概論	TR	選 ※	2	有	湿潤多雨、高温、残雪など気候への対応、地震への技術的対応、芸術の導入や社会・制度の変化における住宅様式の転用や変容など、第二次世界大戦後のいわゆる戦後小住宅の時代にまで綿々とつながる日本住宅の工夫と変遷を学ぶ。 ※建築デザインコース必修
建築史1(近代)	TR	選 ※	2	有	科学技術や抽象芸術の発展といった社会や文化の大きな変化が、建築にどのような影響をもたらしたか、逆に建築の大きな変化が社会や文化にどのような影響をもたらしたか、について学ぶ。また近代では、建築家が次々に新しい理念や具体的なあり方を示し、大きな役割を果たすようになった。その建築家の動向と作品の特徴を学ぶ。 ※建築デザインコース必修
建築史2(西洋)	TR	選 ※	2	有	ヨーロッパの建築の時代様式をガイドとして、古代ギリシャから19世紀までを概観する。各時代様式の特徴・理論、代表的建築・建築家とそれらの変遷の過程を学ぶ。 ※建築デザインコース「建築史2」または「建築史3」を選択必修
建築史3(日本)	TR	選 ※	2	有	日本の建築と都市の歴史を通して、伝統的建築に親しみながら広く知識を得るとともに、日本列島において建築・都市がどのように成立し、時代とともに如何なる空間的・時間的変容を遂げたのかを学ぶ。 ※建築デザインコース「建築史2」または「建築史3」を選択必修

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
建築環境工学	TR	選 ※	2	有	建築物の光環境、日射環境、空気環境、環境音環境、熱環境、湿気環境などの基本事項を確実に理解し、建築における環境工学の課題や重要性を学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は選択必修
建築設備	TR	選 ※	2	有	建築設備に関する基礎的な原理や技術を理解し身につける。電気設備、衛生設備、空調設備の基本システムを習得し、照明・衛生器具・空調負荷の基礎を学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は選択必修
建築材料	TR	選 ※	2	有	建物がどのような材料で形づくられていて、それがどのような現象と背景を併せもつのかを理解する。また、現存する建物から創意工夫や試行錯誤の歴史を読みとり、想像することを通じて未来の建物をつくりだす力を養う。 ※建築デザインコース必修
建築生産	TR	選 ※	2	有	企画、設計、施工、保全から構成される建築生産プロセスを対象にして、その活動を構成する主体(人や組織)とその役割について学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は必修
建築法規	TR	選 ※	2	有	建築家は、プロジェクト・マネージャーとしての設計全般について把握しながら計画をまとめていくことが求められる。これらの設計をまとめるにあたり、建築基準法及びその関連法令がどのような形で、影響を及ぼしているかについて学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は必修
構造力学1	TR	選 ※	各2	有	力の基礎や力のつりあいを理解し、静定梁やトラスなどの構成部材に力が作用した場合に生じる断面力や応力度、変形などを算定するための基礎知識を学ぶ。 ※建築デザインコース必修 ※空間演出デザインコースで二級建築士試験受験資格を取得する方は必修
構造力学2					
造園史1(日本)	TR	選 ※	各2	有	庭園の歴史を洋の東西にわたって概観し、日本庭園の時代別様式や西洋庭園の作庭された国ごとの立地と時代ごとの様式の成立などについて論じる。 ※ランドスケープデザインコース必修
造園史2(西洋)					
環境の保全と計画1	TR	選 ※	各2	有	各地で展開される環境保全の事例を調査・分析し、取り組みに対する特徴や問題点を考察し、環境保全の進め方について学ぶ。 ※ランドスケープデザインコース必修
環境の保全と計画2					
ランドスケープデザイン原論1	TR	選 ※	各2	有	芸術としてのランドスケープデザインをめざすにあたって、造園家としての基本的な姿勢、いわば心構えを自らの内に確立することを学ぶ。また、伝統的日本庭園が有する自然の有り様や審美性を通して、自らの自然観や美意識を醸成し、現代造園における創造の糧とすることを学ぶ。 ※ランドスケープデザインコース必修
ランドスケープデザイン原論2					
マーケティング概論	TR	選 ※	2	有	企業のあらゆる活動に関連しているマーケット発想の基礎知識を学び、実際のマーケティングの流れや狙いを具体的に探ることで、各要素を理解する。 ※空間演出デザインコース必修
ブランディングデザイン論	TR	選 ※	2	有	多様化する消費者の行動の中にあっても、輝きを放つ商品を創造し、その価値を発信し続ける企業のブランディングデザインについて事例を通して学ぶ。 ※空間演出デザインコース必修
インテリア計画論1	TR	選 ※	各2	有	インテリアの概念の発生からその変遷と確立までを検証した後、インテリア計画のプロセスを把握した上で、空間の構造、構法からインテリア空間の構成要素とその組み合わせまでを理解する。各空間における機能とインテリア計画上の要点について学び、今後の計画、設計への活用可能な知識の習得を目的とする。 ※空間演出デザインコース必修
インテリア計画論2					
空間構成材料	TR	選 ※	2	有	建築を構成する建築構造躯体として利用される構造材料と、建築の内部、外部を彩る内外装材について、その素材特質や安全性、さらには五感に関わる色彩やテクスチャなどの快適性などのそれぞれの特性を把握し、空間構成に使用される材料について学ぶ。 ※空間演出デザインコース必修
生活空間デザイン史	TR	選 ※	2	有	住居空間を中心とした空間デザイン及びデザイン思想の変容について理解し、空間デザインに関わる諸現象、諸概念を基礎的な事柄から学び、設計活動に役立つ知識、教養を身につける。 ※空間演出デザインコース必修

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
芸術教養基礎	S	選	1		今日の芸術活動を支えているさまざまな価値観や制度は、長い歴史のなかで徐々に形をとってきたものである。本科目ではそれらの成り立ちを反省し、また芸術の問題を考える際のキーワードのいくつかの意味を考えることで、これから大学で芸術の制作や研究を行うための基礎的視座を得ることを目標としている。
著作権を学ぶ	S	選	1		著作権は、今やアーティスト、デザイナー、プロデューサー、研究者、つまり私たちと切っても切れないものとなっている。自ら作品や論文を作る場合にも、またそれらを守っていくためにも、著作権についての知識は必須である。この講義では、法学・法律学的な視点から「クリエイター」の権利である著作権について考える。

総合教育科目(全学科・コース履修可)

幅広く「知」を育み、「技」と眼をきたえ、「地域」との関わりや取り組みへと結実させられる科目群です。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
ことばと表現	TR	選	1	有	レポートや論文など、大学で日本語を書く際の基礎を学ぶ。
論述基礎	TR	選	2	有	学術的な文章を書くための基本を学ぶ。
情報	TR	選 ※	2	有	「情報」に関する総合的な教養を学ぶ。 ※建築デザインコース必修
外国語1	TR	選	2	有	英語による自己表現の初歩を身につける。
外国語2	TR	選	2	有	異文化理解のためのアプローチとして他言語の構造や表現を学ぶ。
古典日本語	TR	選	2	有	漢文・古文をあらためて学び、しっかりした日本語の教養を身につける。
数学	TR	選	2	有	数学的な思考法としなやかで合理的な知性を育てる。
音楽	TR	選	2	有	演奏技術ではなく、感性と知性とを調和させるものとしての音楽を学ぶ。
身体	TR	選	2	有	特定の流派にとらわれることなく、心身の整え方を習得する。
日本の憲法	TR	選	2	有	日本社会を作る基本法としての憲法のありかたを学ぶ。
地域環境論	TR	選	2	有	地域の環境を考えるための視点を獲得する。
都市デザイン論	TR	選	2	有	都市や住環境のあり方をデザインという観点から考察する。
詩学への案内	TR	選	2	有	詩学に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察する。
哲学への案内	TR	選	2	有	哲学に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察する。
学際的な知への案内	TR	選	2	有	さまざまな学問に関する書物を読み解くことで、学問領域の入り口に立ち、さらにその先に興味を向けて考察する。
心理学	TR	選	2	有	人間の心のはたらきを探る学問的方法について学ぶ。
政治学	TR	選	2	有	政治というアクチュアルな問題を考察する学問的方法を学ぶ。
経済学	TR	選	2	有	経済現象を理解するための考え方を学ぶ。
社会学	TR	選	2	有	人間社会の今日的状況を理解するための枠組みを考える。
宗教学	TR	選	2	有	宗教を社会的・文化的現象として捉え、それを解明するための学問的方法を学ぶ。
日本史	TR	選	2	有	資料を通じ、先入観にとらわれず日本の歴史を考察する方法を身につける。
アジア史	TR	選	2	有	アジアの諸地域のあいだの相互交流と現代に至る歴史を学ぶ。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
西洋史	TR	選	2	有	西洋史についての基本的な歴史的事実と今日との関係について学ぶ。
生態学	TR	選	2	有	生物のさまざまな種のあいだの関係を特定の自然環境を例に考察する。
列島考古学	TR	選	2	有	日本列島の歴史を「モノ」を通じて考える方法について学ぶ。
文化研究1	TR	選	2	有	「子ども」の文化や「若者組」など、近代以降に作られた心身の枠組みを考察する。
文化研究2	TR	選	2	有	第二次大戦後のさまざまな日本の大衆文化を通じて現代社会のありかたを考える。
文化研究3	TR	選	2	有	写真、映画、TVなど映像文化の起源やそれが現在の文化に及ぼす影響を考える。
色彩と形	TR	選	2	有	身のまわりの素材をもとに、「かたち」と「色」のありかた、また面白さを探る。
地域を探る	TR	選	2	有	自分の居住地にあらためて目を配ることによって、世界を把握する手法を得る。
京都を学ぶ	TR	選	2	有	日本の文化の中で重要な地位を占める京都の文化について、成立と特色を学ぶ。
地域環境学演習	TX	選	2		自然環境の生成を学生が選択したジオパークの学習と現地観察に基づき考察する。
地域文化学演習	TX	選	2		西国三十三所のいずれかを实地に踏査することで、特定地域の文化環境の成立と構造を考察する。
学芸基礎講義1～10*	GS	選	各1		対面授業により、さまざまな領域の学術・芸術の講義に触れて自らの教養を養う。
学芸基礎演習1～10*	GS	選	各1		対面授業により、实地にさまざまな学問的・芸術的方法のありかたについて学ぶ。

※「学芸基礎講義1～10」「学芸基礎演習1～10」は藝術学舎の単位連携科目です。

総合教育科目(芸術学科・美術科・デザイン科のみ履修可)

1年次～

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
体育理論	TR	選	2	有	個人がWELLNESS(自分の健康は自分で守る)との関わりの中から、“からだところ”にやさしい健康づくりについて学び、身体表現活動によって身体がいかに改善され、より高いQOL(Quality Of Life)を創造し身につけることができたかを確認する。21世紀の地球環境と人間の健康に関してより多くの分野にわたる健康情報なども学習する。
日本文化論	TR	選	2	有	仏教に基づく「地獄」についての思想を通じて、日本文化についての一つの視野と思想を持つことの力を学ぶ。
ヨーロッパ文化論	TR	選	2	有	ヨーロッパ文化の二つの礎石としてギリシアの思想とヘブライの信仰に触れ、いかにヨーロッパの精神文化がそれらの思想や信仰によって育まれているかを学ぶ。
英語1A	S	選	1		英語で自己紹介、会話に使える表現、質問の聞き方や応え方を学習し、コミュニケーションを取ることの楽しさを体験する。
体育実技	S	選	1		「気操体健康法」について学び、「体力測定」「ウォーキング」「健康スポーツ」等を実施する。幅広い年齢層の方を対象にしており、激しいスポーツは実施しない。今後の生活習慣の中で、自分なりの健康づくりプログラムを応用活用し、いきいきと幸せな人生を過ごすためのウェルネス(WELLNESS)な健康づくりを実践してゆく。
メディア論への階段	S	選	1		マルチメディア時代を歴史・社会的視野をもって捉え、メディア・リテラシーの意識と考え方を学ぶ。
哲学への階段	S	選	1		過去の思索に学びながら、私たちが未来を構想するための原理の探求をめざす。
考古学への階段	S	選	1		具体的事例を交えつつ、考古学という学問の研究手法と理論的な背景を学ぶ。
民俗学への階段	S	選	1		民俗学の成り立ちから、学問的な特徴、研究手法などを学ぶ。
自然学への階段	S	選	1		生物的自然とその基盤となる植生への理解から、人間と自然の関わりについて学ぶ。
天文学・地文学・人文学への階段	S	選	1		天地人的な視点から、人間とは何か、芸術とは何かを考える。
都市環境への階段	S	選	1		実際の都市空間に触れ、そこに潜在したり現れたりする「近代」について考える。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
文学研究への階段	S	選	1		さまざまな文学作品が示す固有の世界観を受け取り、ものの見方を深く養う可能性を探る。
映画研究への階段	S	選	1		19世紀末の映画の発明以降の技術・技法の発展、時代背景との関わり、ドキュメンタリーやドラマなどジャンルの確立といった歴史的な流れをたどるとともに、批評的な観点についても学ぶ。
日本史への階段	S	選	1		特定の時代やテーマを紹介しながら、歴史学の視方や考え方を学ぶ。
社会学への階段	S	選	1		さまざまな人間関係とその背景にある社会問題を考察する。
オンライン授業入門	S	選	1		通信教育課程で学ぶため、パソコンを「道具」として使いこなせるようになるための基礎を学習する。パソコンの初歩的な操作から、airUの使い方、情報リテラシー、遠隔授業(実技系・講義系)のためのノウハウ、作品の撮影技術、作品データ送信方法までを身につける。
入門デッサン1 (静物1:自然物を一つ描く)	S	選	1		初めての方も苦手な方も腕に自信がある方も、全ての人がデッサンの基本の基本をしっかりと学び、その大切さ楽しさに触れるためのスクーリング。一つの自然物に向き合い、デッサンを通して今以上に深くものを見ることを体感する。
入門デッサン2 (静物2:自然物と人工物を描く)	S	選	1		何をどのように意識し、描画材をいかに扱うのかといったデッサンの基本の基本の理解を、一歩ずつ深めながら観察力を磨く。自然物と人工物に向き合い、ものともは関係によって見えていることを知り、描くほどに見ているままのモチーフに近づける楽しさを体感する。
入門デッサン3 (静物3:自然物と人工物のパースを描く)	S	選	1		全ての表現活動の基礎と言われるデッサン。デッサンの基本の基本を学ぶと同時に、その奥深さを体感。動かないモチーフ＝静物によって視点を意識し、ものを見ることの不思議さと楽しさを学ぶ。自然物とデッサンの基本とされるパースが生じる人工物に向き合う。
入門デッサン4 (ヌード・クロッキー)	S	選	1		デッサン力とは、見方の工夫と言える。その工夫の仕方を、ヌードモデルのクロッキーによって体感。短時間で、何十枚と描き続けることによって、形を捉える見方の工夫を身につけ、目と手を連動させ自然な人の姿が描けるようになることを目指す。
入門デッサン5 (イメージのレッスン)	S	選	1		自由自在の表現力を目指すためのレッスン。一人一人ですべて違う、目には見えない自分の記憶やイメージを描く。柔らかく発想イメージが展開できるように、さまざまな表現方法を知り表現に幅が出せることを目指す。
伝統芸術基礎(伝統芸能)	S	選	1		歌舞伎について学ぶ。専門の研究者が、歌舞伎の面白さについてわかりやすく伝える。食わず嫌いの人も、こんなに面白かったのか、と「目から鱗」であるだろう。
伝統芸術基礎(文楽)	S	選	1		伝統的な芸能は、従来、文献または現在残っているものが鑑賞する側から取り上げられてきた。それを演じる側の人間の講義も聞き、その中から日本人のものの感じ方、考え方、表現の仕方等を探っていく。
伝統芸術基礎(茶の湯)	S	選	1		茶の湯は、精神的な要素が根幹となって、一面には審美的造形的な世界を持ち、一面には手前作法から茶事の喜びという美味求心の世界まで有機的に統合される世界である。その構成は、建築・庭園・絵画・墨蹟・工芸と多方面にわたる。また、大きくは、人・場所・道具の三構成からなり、主人と客との関係で手前作法が生まれてくる。茶の湯の文化とその美について学ぶ。
伝統芸術基礎(煎茶)	S	選	1		風雅な喫茶の楽しみは平安時代に始まるが、煎茶の遊びが地歩を固めるのは、江戸時代以降である。「煎茶は文人の余技」とも言われ、最初は画家、書家、篆刻家、陶芸家等の芸術家をはじめ詩人、文学者等に愛好され次第に独自の世界を形成し、煎茶を楽しみながら互いの才能を切磋琢磨した。もう一つの茶道として、その自由で闊達な伝統精神を継承しながら、その核になる「美味しい茶味」の技法を学ぶ。

2年次～

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
基礎デッサン1 (風景:樹木や建物を描く)	S	選	1		アトリエ内では味わえない光や風、湿度、においを体全体で感じ、屋外で目の前に広がる美しく複雑な風景と向き合う。うつろう光や風の中で、樹木や建物、街並みの景観をなんとか画面に見た証として、粘り強く描きこむことを目指す。
基礎デッサン2 (ヌード:裸婦モデルを描く)	S	選	1		芸術の歴史の中で、モチーフの代表格と言えるヌードモデルを描く。ポーズするモデルの緊張感と美しさを感じながら、その構造やリズム、肌に生じる陰影の美しさを時間をかけ粘り強く観察しながら、できる限り自然な人の姿として描き止めることを目指す。
基礎デッサン3 (コスチューム:着衣モデルを描く)	S	選	1		私たちが一番見慣れている人の姿。改めて見直すと、人とコスチュームが織りなす形の対比や調和の美しさを感じる。そのコスチュームモデルの顔や手の表情、布のシワの陰影の美しさなどを時間をかけ観察を深め、ありのままに自然に描くことを目指す。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
基礎デッサン4 (植物:草花を描く)	S	選	1		植物が持つ繊細でありながらも、力強い生命感あふれる形。その形の複雑さ美しさを感じながら描く。観察が深まれば深まるほどに見ているままの植物の形が、見た証として画面に現れることを体感する。
基礎デッサン5 (イメージを自由に描く)	S	選	1		自分のイメージと画材や支持体との切り離せない関係を意識し、自由に制作表現ができるようになることを目指す。今まで描いたことがないぐらい大きな紙を制作し、思いっきり自由に描くことの楽しさや開放感を体感する。
基礎デッサン6 (顔を描く)	S	選	1		私たちは顔の表情から相手の考えや心を読み取る。顔から得られる情報量は多大だ。それゆえ難しいとされる顔を、「模写」と「眼から描き進める自画像」によって描けるようになることを目指す。徹底した観察と描写により、人らしい表情が画面に滲み出ることを体感する。